

自然再興に向けた 生物多様性評価の課題

(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所
研究ディレクター (生物多様性・生物機能研究担当)

八木橋 勉

- 自然再興の実現のためには、生物多様性の状態を正しく評価する必要がある
- 評価手法や評価指標の標準化が必要
- 炭素と違って、評価が単純ではないため、様々な評価手法が乱立気味
- 企業や自治体などが生物多様性を評価できるようにするため、簡便なものが求められる
- 原始的な自然の評価が高くなるような指標が多く、日本の里山のようなアンダーユースによる多様性の低下は、考慮されづらい。

標準化に向けた動き

Nature Positive Initiative (NPI) State of Nature Metrics

- TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）、SBTN（Science Based Targets for Nature）などと連携し、これらの指標を情報開示フレームワークに統合予定
- 基本的に面積や土地利用などで評価する状態指標

IPBES「Business and Biodiversity Assessment」 (2026採択予定)

- 企業や金融機関の行動を支える科学的基盤を強化するため、企業活動が自然資本や生態系サービスにどのように依存し、どのような影響を与えているのかを体系的に整理し、依存（Dependencies）と影響（Impacts）を定量的に把握するための方法論を確立予定
- 科学と企業実務をつなぐ国際的な標準形成を狙う